

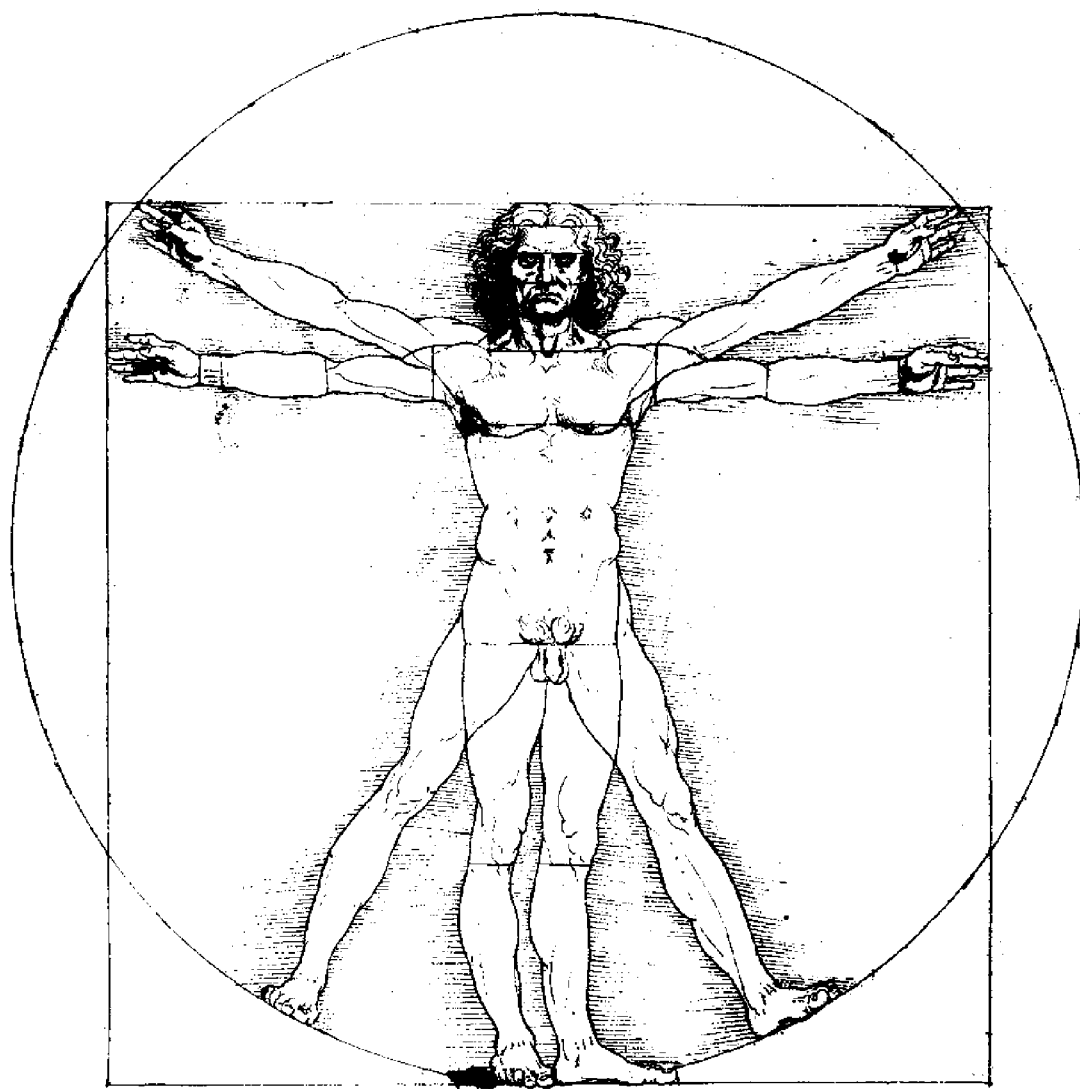
ISHIN

医心

隔月刊・無料配布

2025.9

No. 107



真の最後の砦になるために
改革を、さらに前へ！

富山大学附属病院 病院長

山本 善裕

生きる力を後押しする。

特定医療法人さくら千寿会 さくら病院 院長
福井大学 名誉教授

片山 寛次

どんな手術でも諦めない！
いのちの砦を守り抜く

金沢大学附属病院 呼吸器外科 教授

松本 勲

CONTENTS



04 真の最後の砦になるために 改革を、さらに前へ！

富山大学附属病院 病院長

山本 善裕



12 生きる力を後押しする。

特定医療法人さくら千寿会 さくら病院 院長
福井大学 名誉教授

片山 寛次



18 どんな手術でも諦めない！ いのちの砦を守り抜く

金沢大学附属病院 呼吸器外科 教授

松本 勲



27 ファイネスの お聞かせください、ドクター！ DOCTOR'S VOICE

おおしまクリニック 院長

大島 正寛



29 ISHIN column vol.1 奇跡的に生まれ変わった野村病院

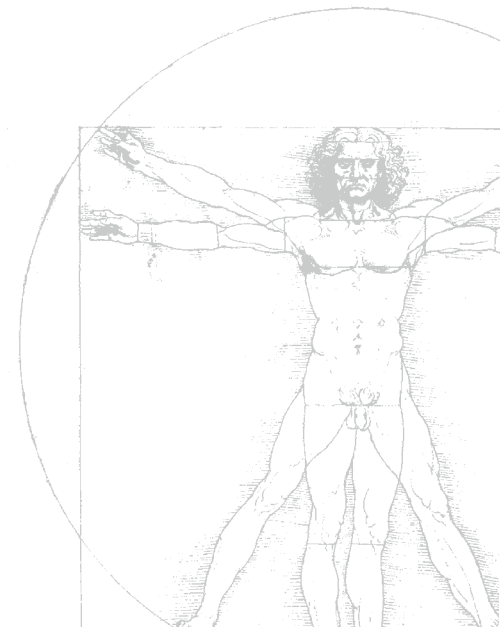
医療法人社団尽誠会 理事長
野村病院グループ CEO

野村 祐介

STAFF

Editor 坂口俊克
Writer 上乗繁能／大廣 涼
Photographer 藤森祐治
Designer 吉田真人／西村恭子

発行／NPO法人 学産 プロジェクト
〒920-0213
石川県金沢市大河端町東55番3号
TEL 076-203-6613
e-mail: info@project-ishin.net



「建物の主治医としての自覚」 —これが、みづほのこだわりです。



きのした内科・循環器内科クリニック様



ののいちメディカルクリニック様



匠歯科医院様



四季歯科医院様



あいおい歯科こども歯科クリニック様(改装)



けやきクリニック整形外科様(増築)

独立の夢、応援します。

培ってきた豊富な経験とノウハウを基に 医療経営コンサルタントによる開業支援

私たちみづほ工業は、医療建築分野での
提案営業スタイルを確立し、
病医院や福祉施設の開業を支援しています。
これまで培った豊富なノウハウを基に診療圏調査、
土地探し、施設提案、事業運営までを
専門スタッフが丁寧にサポート（無償）いたします。
多くのドクターが抱かれている開業についての
不安や不明な点を和らげ自信を持って開業へと
進んでいただけるお手伝いができればと考えております。

医院・歯科医院開業個別相談会

日時 ● 令和7年10月25日(土)・26日(日)
10:00~17:00

会場 ● みづほ工業(株) 本社(八日市)

詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.mizuho-co.com/medical/>

申込QRコード



木造の新しい選択肢。

店舗・事務所・倉庫・医療福祉施設・保育園・アパートなど鉄骨造が一般的だった大規模建築を木造で。

木造建築の新しい選択肢、「テクノストラクチャー」。木造でありながら柱の少ない開放的な大空間を、「木」と「鉄」のハイブリッド複合梁「テクノビーム」で3階建、延床面積3,000㎡まで対応可能です。みづほ工業は建築物の木造化を推進し、地球温暖化の防止や循環型社会の形成、そしてカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

新しい建設サービス業の展開
mizuho みづほ工業株式会社
本社／〒921-8004 金沢市八日市5丁目562番地 TEL 076-249-7010(代) ホームページ／<https://www.mizuho-co.com>

建築コストの削減	建築工期の短縮
高い耐震性と耐久性	建物の軽量化
設計自由度の高さ	大空間の木造建築



医療施設

クリニック

ドクター

薬剤師

看護師

地域包括ケアシステムをサポート

ICCの情報技術「患者情報共有ネットワーク」は
地域包括ケアシステムに関わるすべての方のニーズに応える
ソリューションとして、さまざまな医療の現場で生かされています。

私たちはITで万全のネットワークを築いていきます。

栄養士

介護士

ソーシャルワーカー

ケアマネジャー

民生委員

地域の方々

在宅高齢者施設

民間支援相談室



Link The Medical Information

ITによる医療情報ネットワーク

icc 株式会社
石川コンピュータ・センター

医療システム本部 / 〒924-0833 石川県白山市向島町1100番地
TEL (076) 268-8315 (代) FAX (076) 268-7145
医療向けソリューション <https://www.icc.co.jp/medical/>

■本社 / 〒920-0398 金沢市無量寺町ハ6番地1
TEL (076) 268-8311 (大代表)
<https://www.icc.co.jp/>

■支社 / 東京・名古屋
■支店 / 大阪
■営業所 / 富山・福井



UNIVERSITY OF HOSPITAL TOYAMA # 山本善裕

真の最後の砦になるために
改革を、さらに前へ！

今年4月、山本善裕新病院長は全職員にメッセージを発信し、新たな変革に動き出した。「継承と発展」「徹底した現場主義」に基づき、「誰もが認める富山県医療の最後の砦」をめざす。まずは、その真意から語り始めた。

着任時から改革がスタート

私が、富山大学の教授に着任したのはいまから13年前の2012年です。当時45歳でした。感染症の教授として長崎大学から赴任して以来、病院長に就任するまでの間、私は先々代の齋藤滋先生（現・富山大学学長）と、先代の林篤志先生（富山大学眼科教授）の2人の病院長に副病院長としてお仕えしてきました。

私が病院長になって打ち出した改革の方針は、実は齋藤病院長の時代から始まっていると思っています。それまでの富山大学附属病院は、歴史が浅いこともあって、北陸における影響力はいまほど大きくなく、診療科によっては若手医師の入局者が少ないなど、マンパワー不足や経営的にも苦しい状態だったとお聞きしています。

その現状を変えるために齋藤病院長は、林先生を経営担当の副病院長に起

用し、病院経営を大きく黒字に転換されていきます。その後、齋藤先生が大学の学長に就任され、林先生が病院長になられると、私を経営担当の副病院長に起用していただきました。

私の専門である感染症の専門医は全国的に少なく、着任した当時、富山県では私を含めてわずか5人でした。これはなんとかしなければいけない。率直にそう思いました。

私の出身大学である長崎大学は、人口比でいうと感染症の専門医の数は全国で一番多いところです。熱帯医学研究所という熱帯医学や感染症に関する国内唯一の公的研究機関があって、感染症専門の教授だけで20人ぐらいいます。その域に達するのは無理だとしても、まずは感染症専門医などの人材育成をなんとかしたいと考えました。

そんなときに、齋藤病院長から「感染症専門医を含めて、大学病院全体の教育をしてほしい」と言われ、教育担当の副病院長に抜擢していただきました。赴任してから4年後のことでした。それから人材育成に本格的に取り組むようになります。林病院長のときには、コロナ禍への対応、働き方改革など大学にとって大きな出来事もありました。特にコロナ禍に関しては、感染症専門



医である私の意見を全面的に尊重していただき、病院全体の感染管理、予防対策などを全て任されたほか、富山県など行政や医師会との連携、顔の見える密な関係構築など、対外的にも信頼関係を深めることができたと思っています。

そうした背景もあって、先々代、先代の病院長時代からの伝統と実績を継承し、私の代でさらに発展させていくことを、全職員の皆さんに改めて確認、強調させていただいたわけです。良いところはいっかり継承しつつ、まだ十分ではないところを、私自身が現場に出て確認しながらより徹底していきたいというのが、メッセージにこめた想いです。

全国に誇れる高度な医療

改革路線の奏功もあって、近年の富山大学附属病院の躍進ぶりはめざましい。感染症の分野はもとより、高度医療や先進的な医療でも、診療科のセンタ―化により全国に誇れる実績をあげている。その一つが、消化器内科と消化器外科などが一緒になった「膵臓・胆道センタ―」だ。特に難治性が高いとされる膵臓がんの治療成績を格段に

向上させた。膵臓がん治療で富山大学附属病院の名は一躍、全国区となり、患者は全国から訪れる。

地方大学が生き残っていくためには、突き抜けた診療科とか、治療技術とか、日本でもトップレベルのものをもっていることが重要です。膵臓・胆道センタ―については、藤井努教授や安田一朗教授という全国有数の先生をはじめ、優れた先生方やスタッフが揃っているのを強みとして生かそうと、設立されました。

総合感染症センタ―についても、実は2018年に齋藤滋病院長が先見の明で設立されています。当時はまだ新型コロナウイルス感染症が登場する前でしたが、遺伝子を活用した微生物に対する検査などが必要になると考えて設立され、世界レベルの研究を進めてきました。

私の代で、富山大学附属病院を感染症の分野で、日本有数のレベルに押し上げたいと考えています。それまでに、なんとか感染症の専門医を富山県で30人に増やしたいと思っています。現在は15人程度です。感染症の専門医は、医師になってから最低でも7年しかかかりません。私が着任当時、県下で5人だけ

たことを考えれば、時間はかかりますが決して不可能ではないと思っています。

誰もが認める最後の砦

病院長になって私が改めて取り組みたいのは「教育」です。現在の富山大学附属病院は、私が赴任した13年前と比べて診療、研究、教育、社会貢献、運営などすべての面において、はるかに向上していると思っています。

しかし、これからあるべき姿として私たちがめざすのは、最後の砦として誰からも信頼され、認められる存在になることです。特定機能病院として、私たちは最後の砦という言葉をこれまで使ってきました。しかし名実ともに、富山県医療の最後の砦として誰からも認められる存在かといえれば、まだその域にまで達しているとはいえません。

誰もが認める存在になるには、患者さんや県民の皆さん、行政や他の医療施設、医師会など対外的にも、全職員、スタッフなど対内的にも信頼され、認められることです。

つは、プロフェッショナルリズムの徹底です。

対外的な関係については、とくに行政や医師会とのさらなる連携強化が必要で、定期的な面談を含めて積極的に出向くことだと思っています。すでにコロナ禍の際、私自身が県内における行政や医師会と密な連携を構築してきており、今後は病院全体にまで発展させていきたいと考えています。

対内的には、百聞は一見にしかずで、私自身現場に行かないとわからないことがたくさんあると感じています。病院長が、各診療科の先生と話したいという、一般的に教授や医局長クラスが前面に出ることが多いですが、現場の若い先生やスタッフの意見がどの程度反映されているかまでは正直、わかりません。

それゆえ私は、多少時間はかかっても全部で29ある各診療科の医局員が最も集まる時間帯であるカンファレンスや医局会に出向き私の想いを直接伝え、スタッフの皆さんの声に耳を傾けたいと思っています。

実際に3分の2近くの診療科を回って、病院全体の目標や各診療科の昨年度の高評価点と今年度の重点目標を記載した資料を提示し、若い先生方とも

忌憚なく意見をかわしています。若い先生からどんな活発な意見が出るのは嬉しいですし、各診療科の活性化にもつながるのではないかと期待しています。

「考える力」を養う

山本病院長が二つ目に掲げる「プロフェッショナルリズムの徹底」には、ある意味で感染症のプロとして最前線に立ってきた自身の考え方や人間性の一端が表れているといえなくもない。プロフェッショナルリズムというと、医師として高度な技術や先進的な医療を追い求めるイメージを想像するが、山本病院長は「私の見解は違う」と口にする。

私がいま、改めて教育に取り組むたいと思っている理由の一つは、プロとしての意識の涵養です。医師がスキルを向上させ、高度で専門的な技術を身につける。それはある意味、プロとして当然のことです。そのための教育はもちろん必要だし、大切ですが、私が思うプロフェッショナルリズムは、そうした技術論ではありません。むしろ人として、医療人として、常に患者さん

の側に立って、誠実に、責任をもって考えることです。

仕事に対して「誠実」であるか、仕事に対して「責任」がとれるか、その2つこそが、シンプルですが最も重要だと思っています。

医師は、病気を診るのではなく、病気になった患者さんを診ることだといわれます。それが本来、医師のあるべき姿だと私は思っています。しかし医学が高度に進んだいまの医療は、どちらかといえば病気だけを診ている医師が増えてきている気がします。

いまの医療はガイドラインが多く、医師をめざす人たちは国家試験に受かるために私たちの時代の何倍もの勉強量を強いられます。試験に受からないと医師にならないわけですから本当に大変だと思えますし、その努力には頭が下がります。

しかし試験に受かることが大前提になって「考える」ことが疎かになってしまっただけ、果たして患者さんに対して誠実に、責任を果たしたことになるのか、と思うのです。

病気を診るのではなく、患者さん自身を病気になる前の生活により近づける。そのために持てる技術を最大限使い、QOLを良くするところまで医師

がかかわることが重要です。その前提に立つと、患者さんとの接し方から変わってくるはずですよ。

職員のプラスアルファが必要

プロフェッショナルリズムの涵養は、医療人だけが対象ではありません。私は事務系職員への教育も重要だと考えています。事務系職員は、大学の雇用です。そして、職員は通常3年ごとに部署異動があります。病院に勤務する人も3年ごとに代わります。でも私は、病院事務が3年で変わるなんてあり得ないと思っています。

広く学ぶために3年ごとに異動する考え方はわかりますが、学部の事務と病院の仕事は全く違います。病院は人の命を預かっています。実際に私たち医師は、現場で患者さんの命と向き合っています。その重みや、深く学ぶことの重要性を事務系職員にも感じてもらいたいです。それゆえ今後は、病院で長く勤務できる採用を増やしていきたいと考えています。

そうしたことも含めて、プロフェッショナルリズムに関して全職種を対象に「医療人教育総合センター」を4月1日付で立ち上げました。医師、看護師、薬

剤師をはじめとするすべての医療人に対する、卒前・卒後・生涯教育を通して、プロフェッショナルリズムの涵養と、全人的な医療人を育成するのが、このセンターの役割です。

今後、医学科、看護学科、薬学部と連携し、卒前教育についても積極的に取り組みます。地域枠や特別枠の医学生、事務系職員にも順次、浸透させていく考えです。

職員がより仕事へのやりがいを感じられるように、山本病院長は処遇改善の見直しを進めている。各診療科・部署から幅広く意見を求め、インセンティブをつけたこともその一つだ。スタッフ増員の要望があつたところには適時、増員するなど、可能な限り働きやすい環境づくりを心がけている。同時に、各部署の職員には「+α（プラスアルファ）」の貢献を求めているのも大きな特徴といえよう。

数年前から実践しているのですが、誰もが認める最後の砦となるためにいま、当院では救急医療に力を入れています。そのために全ての診療科にお手伝いをお願いしています。それぞれ事情があり、自主的に手を挙げてくれる

ところばかりではありませんが、いまは全国の大学病院の半数が赤字といわれる中で、各診療科の協力なくして経営は成り立たなくなっています。

現場の医師はもとより、医療スタッフや職員一人ひとりが、何か1つでもいいですから病院全体への貢献につながることを考え、実践する。一人ひとりのプラスアルファが、経営全体に好循環を及ぼし、誰もが認める最後の砦につながる要素だと思っています。



Profile

山本 善裕（やまもと よしひろ）

富山大学附属病院 病院長

【略歴】

1991年 長崎大学医学部卒業
1991年 長崎大学医学部第二内科入局
2007年 長崎大学病院 第二内科（呼吸器・感染症内科）助教
2007年 同 講師
2011年 同 准教授
2012年 富山大学大学院 感染予防医学講座 教授
2013年 富山大学附属病院 感染症科診療科長
2016年 富山大学附属病院 副病院長
2018年 富山大学附属病院 総合感染症センター長
2025年 富山大学附属病院 病院長

健やかな未来のために。

真のソリューションを実現する 価値あるサポート。

丸文通商は、医用機器と科学機器の供給を通じて、人々の健康維持と新しい産業の創造に貢献しています。取り扱いメーカーとの緊密な連携により最新の製品情報をスピーディに提供するとともに、自社のカスタマー・エンジニアによるメンテナンス体制を構築。真のソリューションを実現する価値あるサポートを展開しています。



医用機器部門

各種医用機器・システムの提供はもちろん、マーケティングに基づくアドバイスを行うなど、メディカルコンサルタントとして病院経営全般をサポートしています。



科学機器・産業機器部門

絶えまなく技術革新を続ける科学機器の最新情報を幅広く収集しながら、ユーザーニーズに応じた、最適なマシン・システムをコーディネートしています。



技術・サービス部門

メンテナンスや修理などのアフターケアによって、ユーザーをサポートするとともに、オリジナル製品や各種システムの開発にも取り組んでいます。

明日の健康と新産業創造のパートナー



<https://www.marubun-tsusyo.co.jp/>

金沢支店

〒920-0385 石川県金沢市松島一丁目40番地
TEL 076-269-1880 / FAX 076-269-2522

富山支店

〒939-8221 富山県富山市八日町247番地41
TEL 076-429-7190 / FAX 076-429-3277

福井支店

〒918-8236 福井県福井市和田中二丁目907番地
TEL 0776-23-8070 / FAX 0776-23-9500

mt-a4-2412

「理」と「美」の追及から生まれる唯一無二の建築

私達「株式会社浦建築研究所」は、グループ企業である「株式会社浦環境研究所」とともに、一体的に設計を行う「総合設計事務所」です。建築設計を大別すると、意匠・構造・設備設計があります。私達は常に内部に各々の専門家を有し、初期段階からプロジェクトに参画、緊密な連携のもと、美しく合理的な建築の創造を追及します。建設中の監理段階、建設後のメンテナンスにおいても、これら専門家が意匠・構造・設備のバランスの取れた建築をトータルにサポートします。



医療法人社団博友会金沢西病院



けやきクリニック整形外科



松田小児科・消化器 IBD クリニック



金沢桜町齊藤内科クリニック

医療施設の設計とは

浦建築研究所は、病院・クリニック・福祉施設の設計で数多くの実績を培ってきました。私たちが目指すのは、利用者の安心と快適性に加え、スタッフが力を発揮できる働きやすい環境、そして経営に資する持続可能な建築です。地域の文化を映すアートや工芸を融合し、施設の理念や個性を際立たせながら、構造・設備設計を含む総合的な視点で、安全性と環境性能、運営効率を高い次元で調和させます。

医療施設実績例

公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
公立羽咋病院
市立輪島病院
金沢赤十字病院
(社)松原愛育会石川療育センター
医療法人社団博友会金沢西病院
(社)松原愛育会松原病院
近藤クリニック
こうだ歯科クリニック
なかた整形外科クリニック
らいふクリニック
金沢桜町齊藤内科クリニック
けやきクリニック整形外科
松田小児科・消化器 IBD クリニック
おくやま内科クリニック



株式会社
浦建築研究所
株式会社
浦環境研究所

〈本社〉〒920-0964 石川県金沢市本多町 3-11-1
TEL : 076-261-4131 FAX : 076-223-1251
〈東京事務所〉〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-14-11 HK 平河町 7F
TEL : 03-5797-7815 FAX : 03-5797-7816
<https://www.uraken.co.jp/>

生きる力を 後押しする。

医療の基本は栄養だ

一般病床から地域包括ケア病床、医療療養病床を備えた
ケアミックス型の施設として知られるさくら病院。
何より患者の“生きる力”を後押しする。
なかでも片山寛次院長が訴えるのは、栄養管理の重要性だ。
福井大学医学部附属病院など急性期の最前線で培った
豊富な経験を生かし、患者と向き合う。
片山院長が、その真意を語った。

SAKURA HOSPITAL

特定医療法人さくら千寿会
さくら病院 院長
福井大学 名誉教授

片山寛次



病院のイメージを変える

北陸自動車道を福井インターで降りて国道8号に向かって進む。鯖江方面に車を走らせると、やがて福井県済生会病院、福井赤十字病院などの基幹病院が見えてくる。下河北交差点を右折し、県道229号線に出て最初の信号を右に曲がると「さくら病院」の文字看板が目に入る。

インターからほぼ20分、幹線道路に面し病院からのアクセスもいい。ロケーションの良さが、そのままさくら病院の存在を際立たせていると言えなくもない。

「距離が近いこともあって、日赤（福井赤十字病院）、福井県立病院、福井大学医学部附属病院、福井県済生会病院などからの紹介が多いですね。下り搬送といて、基幹病院の救急外来で治療を受け、入院せずにそのまま直接、当院に搬送されるケースもあるんですよ」

さくら病院は、主には急性期の治療を終えその後も継続的に入院療養が必要な患者はじめ、福井市全域の病院、クリニック、介護施設からの紹介患者などを受け持つ。基幹病院で感染症や外傷、骨折などの治療を受け、その後の療養を引き受けたり、栄養管理やリハビリテーションを目的とした転院患者も少なくない。

2022年に院長に就任してから3年余り。片山院長は、地域におけるさくら病院のイメージを変えた人でもある。「それまでは完全に療養型病院。どちらといえば老人病院と見られていた」（片山院長）。そのイメージを払拭し、総合診療を軸に、超急性期以外のすべての医療とケアをワンストップで提供する「コミュニティホスピタル」をめざしてきた。

「私自身もともと外科医で、がん診療や臨床栄養学、緩和医療を専門としてきました。がんはもちろん、心不全、腎臓病、脳血管障害、認知症やその他の慢性疾患から終末期に至るまで、入院治療から在宅医療まで、自分たちができることを最大限に生かし対応できるようにしてきたのです」

そう振り返るように、栄養治療、緩和ケアはもちろん、慢性疾患の管理、骨折や白内障、痔やヘルニアなどの手術も行い、「患者さんが穏やかに生きることをお手伝い」することに積極的に取り組んできた。ベッド数は63床と小規模だが、診療科の守備範囲は広い。内科、外科、整形外科、リハビリテーション科の他、眼科や消化器内科、消化器外科、肛門外科、呼吸器内科、糖尿病内科を備えている。

患者や家族の話をじっくり聴く

現在71歳。年齢を感じさせない風格ある姿から、大学病院や地域医療の現場で積み上げてきた豊富な経験が見え隠れする。医師になって最初に勤務した金沢大学附属病院では、旧第二外科に属し、肝胆膵外科や、後には胃、食道の手術にも参加した。その後、福井大学医学部附属病院に異動して大腸外科を任せられ、途中から肝胆膵外科を担当した。

「日本肝胆膵外科学会の高度技能指導医になりました。当時、福井県下ではまだ数少なかったと記憶しています。その後、膵癌の治療やがん性腹膜炎の治療に取り組み、手術と化学療法、温熱療法、放射線治療も組み合わせた集学的治療を研究、実施してきました。術後の栄養管理を含めて多くの患者さんの状態改善に尽力しました。その経験から、急性期の病院から紹介されてくる患者さんがどんな治療を受け、どういう経過をたどっているかはよく分かります」

急性期病院は在院日数が短く、緩和ケアや栄養管理まで十分な手が及ばない。それゆえ片山院長は、紹介されてきた患者や家族にこの先どうしたいのかじっくり耳を傾ける。

「自宅や施設に帰りたいといえば、帰るためにどうするかを考えます。緩和ケアや栄養をしっかりと管理し、リハビリをして、患者さんの生きようとする力を後押しします。たとえばがんの治療の効果は栄養の維持が無ければ改善できませんし、早期からの緩和ケアも治療効果や生存率を改善します。他の疾患でも栄養管理をしっかり行うことで、状態改善が見込めるケースは少なくありません。要は、急性期から引き継いで、患者さんの意向に寄り添いながら、よりおだやかに社会復帰出来るようお手伝いすることが私たちの役割です」

患者の中には終末期や認知症の人もいます。看取りを依頼されることもある。しかし認知症状があっても、患者の意思を尊重しながらどうしたいかを探り、気持ちを引き出し、安心した療養生活のために何が出来るかを考える。意思表示が難しい時は家族と相談して意思決定を支援する。そんなスタイルを貫いてきた。

栄養改善で体は元気になる

さくら病院の強みは、がん診療や臨床栄養学、緩和ケアに基づいて、外来から入院治療、在宅医療までシームレスにカバーできることだ。とくに、福井大学医

アメニティ
レンタルの
ご案内

24時間ご利用可能なので安心
清潔な院内・施設内環境を保てます (院内感染の防止)
看護・介護職員さま、事務職員さまの業務軽減 (人員不足の解消など)
患者さまと来院された方とを区別できます (防犯上の管理)
緊急入院や災害時にも利用可能です

入院も退院も、 手間いらず。

安心しておまかせいただける理由

1,403施設 約20万床の採用実績

Pマーク取得という信頼性

ISO取得という信用性

導入事例の見学も可能

アフターサポートも万全

株式会社アメニティ
0120-859-957

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20

営業所

旭川・札幌・帯広・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・郡山・高崎・水戸・
千葉・さいたま・横浜・新潟・長野・富山・金沢・静岡・浜松・名古屋・
新大阪・京都・岡山・広島・高松・松山・福岡・鹿児島

<https://www.amenity-ss.co.jp/>

「アメニティセット」および「アメニティサポートシステム」は株式会社アメニティの登録商標です。



学部附属病院で33年間の長きにわたって勤務し、消化器外科医として重篤な疾患に携わってきた片山院長は、治療を開始する時点からの栄養管理と緩和ケアの重要性を訴える。

「苦痛の軽減と栄養管理はその後の治療成績を挙げる重要な因子です。終末期においても患者さんが希望される場所での療養するには、栄養と緩和の技術が欠かせません。にもかかわらず、栄養治療の是非など、患者さんの意思確認についての申し送りが無い事やそもそもされていないケースに遭遇することがあります。時には、患者さん本人を交えずに、家族に対して『胃瘻は希望しませんよね?』と告げられることもあるようです。一般の人だけで無く、医療者でも胃瘻の適応や効果に対する誤解が多いと思います」

驚きを示しながら片山院長は栄養摂取の重要性を軽視しがちな医療のあり方に警鐘を鳴らす。

た栄養に比べて免疫能が低下します。従って、長期的栄養には、胃瘻や腸瘻による経腸栄養が安全で効果的です。その上で経口摂取を目指して嚥下訓練を行い、胃瘻を抜去出来ることが理想です」

片山院長が、栄養の重要性を強調するのは理由がある。福井大学医学部附属病院に勤務していた間、片山院長はNST (Nutrition Support Team: 栄養サポートチーム) を率いていた。NSTは、病気や手術のために十分な食事が摂れない患者に対して最適な栄養補給の方法や、病気の回復などに有用な栄養管理の仕方などを医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士や言語聴覚士などが集まって検討し、提案するチームだ。

当時、消化器外科医としてNSTに加わっていた片山院長は「大学病院の入院患者に食事や栄養についてアンケートを取ったところ、栄養状態の悪い患者さんが4割以上いて愕然とした」という。その結果から摂取カロリーを重視した栄養ではなく、たんぱく質や脂質、ビタミン、ミネラルといった本来、体に必要な栄養価を摂取する重要性に気づき栄養の質を高める食事やメニューに目を向けた。体に正しい栄養が行き届かないと、治療効果も高まらない。たとえ短期の入院であっても、その患者に最適な食事や栄養

補給方法を提供することは、退院後の生活や栄養管理の改善にもつながる。そのことを実感したのだった。

骨惜しみはしない

片山院長に、そうした栄養管理の必要性を説いたのは、金沢大学で研修医1年目に出会った指導医だった。

「竹下先生は、小児外科医でした。食べられない患児の管理は難しく、多くを学べました。また、その頃の金沢大学では、脾臓がんに対して拡大手術を行っていました。脾臓と胃と十二指腸を取るだけでなく内臓神経やリンパ管をこつそり切除すると、消化吸収機能が落ちて食事摂取してもそのまま下痢として排泄されてしまいます。栄養低下から免疫不全となり、次々と合併症が起こりました。竹下先生の教えに従い四苦八苦して栄養管理をしながら、大切なのは、栄養治療しながら患者さんの便の検査により消化吸収能を評価することが重要と考えました。その頃は患者さんや看護師さんにうんこの先生なんて呼ばれてました」

指導医から「患者さんのために骨惜しみはするな」と教わった片山院長は、いまもその言葉をモットーにする。患者の生きる力を後押しするには、治療に骨惜

PROFILE

片山 寛次 かたやま・かんじ

1953年生まれ。関西医科大学卒。金沢大学旧第二外科に入局。外科診療や大学院での研究を経て福井大学第一外科へ。消化器外科医、がん専門医として脾臓やがんの腹膜転移の研究と臨床に従事。福井大学がん診療推進センター教授としてがん診療全般、緩和ケアに従事。また栄養部長としてNSTチェアマン、栄養教育にも従事してきた。趣味は剣道とスキー。

しみをしない。栄養管理やリハビリカンファレンスに参画し、スタッフとの意思疎通を欠かさない。

小学生のころ、兄が虫垂炎になり「その手術現場を見たい」と執刀医に申し出て、間近で見たことが外科医を志すきっかけになった。兄であり、グループを束ねる法人の片山外一理事長も同じく外科医である。

高校時代から剣道に親しみ、大学では同好会しかなかったため自ら剣道部を創部。初代主将として活躍した。以来、50年以上を経たいまも「年に数回は母校で現役部員と竹刀を交える」のが楽しみだという。段位は三段。自らを律し、患者のために骨身を惜しまない。そこには、いまなお現役医師として輝きを放つ片山院長の覚悟が垣間見えた。

福井県医療情報誌「neo」7号より
記事転用

どんな手術でも 諦めない！ いのちの砦を 守り抜く

金沢大学附属病院 呼吸器外科教授 松本 勲

自分の家族を助けたい

「昆虫が好きで、高校の頃まで昆虫博士になりたいと思っていました。それまで、大学は理学部志望でした」

取材中、松本勲教授の口から意外な言葉が飛び出した。医師になって35年、金沢大学附属病院の旧・第一外科（後の心肺・総合外科、先進総合外科）に入局以来、心臓、呼吸器、消化器という、いわば外科医の王道ともいえるコースを歩いてきた。

いま、金沢大学附属病院呼吸器外科の教授として、世界的視野に立った最先端の医療を追求し、それを「自分や自分の家族に受けてもらいたい」とアピールする。呼吸器外科領域のどんな手術でも最後まで諦めない。外科医・松本の原点を問いかけた。

「高校生の頃、家で祖母が発熱して痙攣を起こしたんです。様子を見てただ事ではないと思いながら、自分も家族も右往左往するばかりで何もしてあげられなかった。そのときに、家族に何かあったら助けたいと思って、昆虫博士じゃ守ってあげられない。そう思って、のちに医学部に志望を変えました。原点といえば、それがそうかもしれません」

ISAOMATSUMOTO

KANAZAWA UNIVERSITY HOSPITAL

以来、「自分や自分の家族に常に最高の医療を届けたい」気持ちで患者と向き合い、外科医としてのキャリアを重ねてきた。

医師になつて4年目、勤務医として多忙を極めていたころ、喘息を患っていた父親が重積発作を起こしたと連絡を受ける。通常の喘息発作とは異なり、重度の気道狭窄が24時間以上継続する状態だ。呼吸困難や意識障害を引き起こし、生命の危険が伴う。

父親が窒息状態であることを知った松本医師は「勤務先だった石川県立中央病院に救急搬送してもらい、自らの手で気管挿管した」そうだ。

「医師として患者（父親）と向き合いながら、どんな治療をすればいいか。どうしたらこの人を助けられるかを必死で考えました。同時に、瀕死の状態で挿管された父親を見守る家族の気持ちも、痛いほどよくわかりました。父は、残念ながら16年後、三度目の発作を起こして亡くなりますが、両方の立場を経験したことで、自分や自分の家族を助けるつもりで常に最高の医療を届けたい思いが、より強くなりました」

自分や家族が重い病気になったとき、誰しも最良の医療を求めるはずだ。その

手術の半数以上は、原発性肺がんが占めており、そのほか気胸、縦隔腫瘍、肺良性腫瘍、転移性肺がんなどに対して胸腔鏡手術やロボット手術を行い、体への負担が少ない治療に努める。

「呼吸器外科では、伝統的な手術から最新の胸腔鏡や、Da VinciTM hirotorTM などロボットを使った手術まで幅広く対応しています。私が教授になつて2年8カ月になりますが、患者さんに必要な手術を、必要最小限の侵襲で行い、元気に社会復帰していただくことを最優先してきました。若い医局員には『井の中の蛙』で終わってほしくないで、できれば海外に目を向けながら新しいことにチャレンジして欲しいと訴えています」

松本教授によれば「患者の体への負担が少ない低侵襲の手術は、いまや当たり前」。北陸で肺移植ができる施設はないので、なんとか私の任期中に肺移植ができる礎をつくりたいと思っています。金沢大学附属病院では、腎臓と肝臓移植はすでに行っています。北陸でも肺移植、心臓移植ができるようにしたいので、施



ときに、身近に最新の医学的、科学的な証拠に基づいた、最良の医療・治療を実践できる環境があれば、迷わず選択するであろう。松本教授が掲げる呼吸器外科の診療方針は、そうした患者や家族の心情に寄り添い、重い病気に立ち向かう医師としての決意を示すものでもある。

低侵襲から肺移植へ

金沢大学附属病院の呼吸器外科は、旧・第一外科時代から「世界的視野に立った最先端の医療を追求し、患者の治療や地域医療に活かす」ことを第一に、患者一人ひとりの病態に即した診療を展開してきた。

対象は、胸部における心臓と大動脈以外のすべての疾患だ。肺、気管及び気管支、胸膜、縦隔、横隔膜などの臓器で、疾患としては悪性疾患、良性疾患、自然気胸、膿胸などの感染症、漏斗胸、先天性肺疾患、外傷など幅広い分野の診断、治療を行う。

手術件数は、年間約300例。関連病院に出向いて手術するケースもあり、実際の件数はもっと多い。松本教授は「これだけの数をこなせるのは、北陸の施設ではかなり少ないと思います」と胸を張る。

設要件を含めて、そのための研究と実施できる医師の育成に力を入れていきたいと思っています」

肺がん治療が劇的に変化

呼吸器外科の強みや実績を後押ししているのが、他の診療科との連携だ。金沢大学附属病院は、数年前に診療科の再編を行い、とりわけ旧第一外科、第二外科を「外科」に一本化した。金沢大学外科アライアンス…K A S A (Kanazawa University Surgeons' Alliance) という新しい枠組みを作り、研修医や医学生の入局にあっても「外科」が入口となり、そこから専門によって、心臓血管外科、呼吸器外科、消化管外科、肝胆膵移植外科、乳腺外科、小児外科といった臓器別に分かれる。

この外科の一本化が、各講座の教授陣と診療面での密度の濃い連携につながっている。松本教授がメリットを強調する。

「（連携は）思いのほか機能していて、たとえば小児外科の先生に電話一本で外来に出向いてもらったり、これまで紹介状を書いてお願いしていたことが、手術中に診てもらえるようになったり。各講座の先生同士が気軽に連絡を取り合い、

必要な時に必要な連携がとれることが大きな変化だと思います」

手術や集学的な治療が必要な疾患についても、連携が重要な役割を果たしている。毎週1回、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線科、中央病理部の医師と、呼吸器外科の合同カンファレンスを行い、患者一人ひとりの治療計画を綿密に立てる。疾患に合わせて化学療法や放射線療法を含めた複合的な治療を行うなど、常に最高水準の医療を提供する体制が取られているのだ。

とくに呼吸器領域は、ここ数年肺がんの治療法が劇的に進化した。オプジーボやキイトルダといった免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬などの出現が、治療後の生命予後を大きく変えたのだ。「手術単独の治療では難しい場合に、これまで化学療法や放射線治療を行ってがんを縮小してから手術するのが一般的でした。それが2022年ごろから、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的薬が保険適用になったこともあって、手術前後に使えるようになったのです。これが進行性肺がんの生命予後を大きく伸ばす結果につながっています」

当然それは、呼吸器内科や腫瘍内科、放射線科などとの連携の重要性や密度

を、さらに高める結果にもなっている。

「呼吸器内科の矢野聖二教授とは以前から親しい関係ですが、患者さんの状態を診て『内科で化学療法をするより、早めに手術をされた方がいいのではないですか』と、外科の立場になってアドバイスをいただきます。私たちも手術が絡む症例で、手術前に『先生、内科的にはどうでしょうか』とやりとりしながら、状況を確認しあいます。その関係がうまくいっていることが、手術や治療成績にもつながっていると思います」

呼吸器外科の魅力とは？

松本教授は、呼吸器外科の診療レベルを、関連病院や地域の医療機関にも惜しみなく提供する。「世界的視野に立った最先端の医療を追求し、患者はもとより、地域医療にも活かしていく」ことが、医師になった時からの変わらないテーマでもあるからだ。

「いままで自分たちが提供してきた医療の質を落とすことがあってはいけませんし、金沢大学附属病院の呼吸器外科の医療レベルは、世界的にも見劣りしない。常に最良、最善の医療を、受けたい人に惜しみなく提供してくれる。そういう存

在であるべきだと思います。北陸の患者さんが、ここに来ればきつとなんとかしてくれる。その期待に応えられることが『最後の砦』としての私たちの役割だと思います」

その使命を果たすために、どこにも真似のできない手術、どんなに難しい手術でも最後まで諦めない姿勢を貫く。

「局所に進行した肺癌や悪性縦隔腫瘍が背骨や心臓、大血管、食道、気管などの重要臓器に浸潤している場合でも積極的に根治的な手術を行って、臓器の再建を行っています。手術は難しく、長時間に及びます。このような手術ができる病院は日本でも数少ないし、真似のできない手術だと思います」

いま、外科医のなり手が少なくなっている。その中で、金沢大学附属病院の呼吸器外科では「少しずつ若い医局員が増えていく」という。肺移植手術をめざして、夫婦で入局した医局員もいる。呼吸器外科の魅力の一端を、松本教授はこう語る。

「呼吸器はあらゆる臓器に関連しています。それに同じ外科の中でも守備範囲が広く、働き方やワークライフバランス、QOLも悪くない。私自身がいろいろ経験してきた中で、感じている魅力の一つ

だと思っています。外科医は、自分の手で治療し、最後まで完結できる。その魅力を若い人たちに、どんどん伝えていきたいと思っています」

どんな疾患や手術でも決して諦めない。呼吸器外科のスペシャリスト、松本教授の真髄でもある。



松本 勲 (まつもと いさお)

金沢大学附属病院 呼吸器外科教授

1991年 国立金沢大学医学部医学科卒業
金沢大学附属病院 第一外科 入局
1992年 公立能登総合病院 外科
1993年 国立静岡病院 外科
厚生連高岡病院 胸部外科

1994年 金沢大学医学部附属病院 第一外科
1995年 石川県立中央病院 呼吸器外科
金沢大学医学部附属病院 第一外科 医員

1996年 金沢有松病院 外科/小松市民病院 外科
2001年 横浜栄共済病院 胸部心臓血管外科

2003年 金沢大学医学部附属病院 心臓・総合外科 助手(現助教)
2009年 金沢大学附属病院 呼吸器外科 臨床准教授

2013年 金沢大学附属病院 講師
2014年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 心肺病態制御学 准教授
金沢大学附属病院 呼吸器外科 臨床教授、科長

2015年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 先進総合外科学 准教授
2020年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 呼吸器外科学 准教授
2023年 金沢大学医薬保健研究域医学系 呼吸器外科学 教授

購入から15年以内で このような 医療機器 はございませんか？

日本で使用されなくなった内視鏡・エコー・CR読取り装置・眼科機器・CT/MRI装置は、
多くの発展途上国で必要とされています。



弊社が買取りいたします。
各社リース更新・満了・返却機器もご相談ください。

らくらく買取



QRコードを
読み込んでください

DCPソリューションは
豊富な経験とネットワークを持つ
先生方のよきパートナーとして
開業支援サービスを提供しています。

ドラッグストア併設で 理想の開業を！

DCPソリューションの提供サービス

経営理念、診療方針の作成
開業までのスケジュール作成
開業地の選定、診療圏分析
事業計画の策定
融資の打診及び交渉
設計、内装業者紹介及びアドバイス
医療機器選定
税理士、公認会計士の紹介
広告相談
従業員募集、採用、教育の補助
開設手続き
開業後の経営支援、拡大展開
継承支援



拠 点

- 関東エリア(本社) ●東京都千代田区鍛冶町一丁目7番6号
ビルトップ神田ビル
- 中部エリア ●愛知県大府市横根町新江62番地の1
- 関西エリア ●大阪府大阪市淀川区宮原一丁目2番4号
新大阪第5ドイビル13階
- 北陸・長野エリア ●石川県金沢市藤江北4丁目280番地

開業の事例や
先生方の声が
ご覧頂けます



富山県高岡市羽広

おおしまクリニック

内科・外科・乳腺診療・内視鏡診療



大島 正寛 院長

〔略歴〕

2003年 日本大学医学部卒業
2003年 金沢大学先進・総合外科(旧第一外科)入局
2007年 厚生連高岡病院外科
2014年 横浜栄病院外科
2016年 厚生連高岡病院外科
2025年 おおしまクリニック 開業

乳腺診療にも注力 地域に寄り添う医療を



外科医としての 経験を生かして開業

クリニックはホワイトをベースに、板張りの受付カウンターやセンターコートから注ぐ自然光が温もりに包まれた空間をつくり出す。「不調を抱えて来院された皆さんに、少しでも癒やしを感じていただけたら」。こう柔和な笑顔を浮かべ、大島正寛院長が設計のポインントを教えてくれた「おおしまクリニック」は、今年5月に高岡市羽広に開院した。金沢大学附属病院をはじめ地域の基幹病院で20年以上にわたって外科医として腕を磨いた大島院長が、医師としての新たなスタートを切ったクリニックでは内科・外科の一般診療に幅広く力を注いでいる。

なかでも、大きな特色といえるのが乳腺診療だ。超音波検査機器に加え、クリニックとしては珍しく、マンモグラフィも設置する。大島院長は開業前に勤めていた厚生連高岡病院で乳腺チームに所属し、500人以上の乳がん手術を担当した実績を誇る。その中で身につけた豊富な知見をもとに、地域の人を足で運びやすい、かかりつけ医の立場から早期発見に努めており、「痛みやし

感謝とご縁を大切に 愛され選ばれる医院へ

こりはもちろん、ちょっとした違和感でも、気になることがあれば受診してください」(大島院長)とメッセージを送る。

また、内視鏡専門医としての実績も確かで、これまでに2万人以上を診断。痛みの少ない細い内視鏡を巧みに操り、消化器系疾患の早期発見に目を光らせている。

「とりわけ、大きな力になっているのが、人とのご縁ですね。先輩の先生方からは、命に直結する医療に携わる心構えや研鑽を重ねる大切さを、ときに厳しく教えていただきました。手術をするにしても、看護

師などの医療スタッフとの協力が欠かせません」

大島院長は言葉に力を込め、歩み始めたクリニックでも、看護師・医療事務スタッフとのチームワークを大切にしている。その一環として綿密なミーティングを心がけ、一丸となって接遇の向上や待ち時間の短縮など、患者を第一に考えた環境づくりに知恵を絞っている。「かつては手術中心でしたが、いまは患者さんと向き合い、お話を聞く時間が多くなっています。立場が変わり、毎日が勉強ですし、医師としての新たなやりがいも感じているところです」と大島院長。地域に愛され、選ばれるクリニックを目指し、着実に前進を続けている。



健やかな未来に、潤いを。

主なソリューション内容

- ・新規開業・開局支援
- ・医薬分業支援
- ・経営コンサルティング(事業承継、etc.)
- ・システム・医療機器コンサルティング
- ・各種研修会、医業経営情報配信サービス

総合窓口 本社 ソリューション部
TEL:076-239-0625
E-mail: solution@jp-finese.com



医薬品卸売業

Finese 株式会社 ファイネス

[本社／金沢支店] 〒920-0295 石川県金沢市大浦町ハ55番地 TEL 076(239)0032 FAX 076(239)0092
[支店] 小松支店・七尾支店・富山支店・高岡支店・黒部支店・福井支店・敦賀支店・名古屋支店
[営業所] 高山営業所・三重営業所・豊橋営業所

奇跡的に生まれ変わった野村病院

～危機から脱却し慢性期医療の新たなモデルを築く軌跡～



医療法人社団尽誠会 理事長
野村病院グループ CEO

野村 祐介

地域と医療従事者に選ばれる挑戦

全国の病院が経営に苦しむ中、かつては野村病院も極めて厳しい状況にあったのは間違いない。しかし、3つのステップからなる改革を進めた結果、病院は奇跡的とも言える再生を遂げた。現在では「地域から、そして医療従事者に選ばれる病院」として、専門誌などから注目されるようになったのだ。本連載は当院が危機から脱却し、選ばれる病院へと生まれ変わるまでの軌跡を振り返るものである。医療現場と経営の両面から見た「選ばれる病院」の条件と、今後の医療経営への示唆について考察する。

第1回 危機に直面した野村病院と 基盤づくりの第一歩

当院は富山市郊外の水橋駅前に位置し、1階に外来、2階・3階に療養病床200床、4階に介護医療院100室を有している。1967年の開院以来、地域の慢性期医療を担う病院として発展してきたが、稼働率低迷やスタッフ不足という課題を抱えていた。

私が病院経営に加わったのは2012年から。2004年に父が亡くなり、11年に祖父が鬼籍に入ってから、法人化した初代理事長に就任したのである。ただ、当時は急性期病院で働いており、当院には週1回だけ足を運んでいた。

まず取り組んだのは、理事長としてグループ全体を把握することだった。沿革を作成し過去の評価を行い、グループとして量的拡大を優先してきたことを理解した。加えて、現状分析の結果、稼働率は80%前後と低く、一時的に一部病棟を閉鎖せざるを得ないほどのスタッフ不足も認められたのである。また、病院理念は存在せず、施設が分散していたのも課題だったといえるだろう。野村病院のほか、浜

黒崎野村病院、糸魚川市の介護老人保健施設至誠会、さらに白岩川・日方江の両有料老人ホーム、日方江温泉が存在した。特に糸魚川市の施設に訪問できるのは月1回ほど。量的拡大から質的充実への転換の必要性を強く認識した。

一方で、施設集約化と医療・介護の質向上の必要性を感じたが、目標と現実の乖離は大きく、第一段階としてグループ中核である野村病院の改革を3つのステップで進めることとした。

■ステップ1（2012年）…
まず「平均的な病院」へ

病院に入ってみたところ、施設・物品面やスタッフの業務慣行に複数の問題が存在した。施設・物品面では救急カートやセントラルモニターが不足し、医療安全と感染対策の徹底も不十分だったのである。具体例として、ディスプレイザブル製品の滅菌再利用や、処置時のエプロン未使用が認められたため、必要物品を購入するとともに悪しき慣習は廃止することにした。スタッフの意識改革としては、紹介患者の断りを禁止した。週1回だった入院受入会議は廃止し、迅速な受け入れ体制を整備。経営意識の欠如に対しては、新入院の場合に入院受入通知書

を発行し、受入不可能な場合には断った理由のヒアリングを行い、スタッフの意見を尊重しながら稼働率低下が病院経営に及ぼす影響を周知した。

病院運営面では、将来ビジョンや理念が未整備であったことから、地域医療への貢献を当面の理念として定め、目の前の課題解決を優先することに。地域の評判改善のため、ウェブサイトの新設とSNSの活用も行い、情報発信に努めた。

ステップ1の評価として、平均的な病院を目指す取り組みは達成されたものの、あくまでも短期課題の解決に留まったといえるだろう。しかし、中長期的な病院ビジョンの策定には至らず、依然として、病院には多くの課題が残されたままだった。

（第2回につづく）



mission

家元で理想を超える家づくり



理想のライフスタイルに 合わせた完璧な住まい

私たちは、お客様一人ひとりのライフスタイルに寄り添い、最適なデザインを提案します。家族の夢、趣味、日常の小さな瞬間までを考慮した、唯一無二の住まいを創り上げます。

人や環境にやさしい 高性能な家づくり

私たちの家は、地球環境に配慮した最新の技術を取り入れています。エネルギー効率の高い設計、再生可能エネルギーの活用、自然素材の選定など、持続可能な未来を見据えた家づくりを実現しています。

技術力の高い職人たちが 支える確かな品質

高い技術力を誇る熟練の職人たちが、細部にまでこだわりを持って施工します。長年の経験と確かな技術で、お客様の期待を超える住まいをお届けします。



お問合せ

詳細な情報やモデルハウスの見学をご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

<https://kanazawaiemoto.jp>

076-255-1201



株式会社家元 石川県金沢市問屋町 1-27-1

【建設業】石川県知事許可（般-1）第17091号
【一級建築士事務所】建築設計事務所 意匠庵 / 石川県知事許可 第13806号
【宅地建物取引業】Find.r / 石川県知事（1）第4223号



美しい人になる
家元の家。

変わりゆく医療を あなたとともに。

取材にご協力いただきました医療者の方々、ご協賛していただきました企業様に心より感謝申し上げます。

また、医療情報誌「ISHIN」では私たちの活動にご賛同いただけるスポンサーを募っています。

Special Thanks

【広告掲載企業】

株式会社 スギ薬局

スギメディカル株式会社

株式会社 DCP ソリューション

株式会社 石川コンピュータ・センター

みづほ工業株式会社

株式会社 ファイネス

ディレクト株式会社

株式会社 アメニティ

株式会社 クオンヘルスケア

丸文通商株式会社

株式会社浦建築研究所

株式会社 福光屋

株式会社 家元

【協賛企業】

料亭 つば甚

株式会社 富士タクシー

株式会社 キョー・エイ、株式会社 兼六、加賀種食品工業株式会社、室野硝子株式会社、株式会社 みづほ室内工業、株式会社 山崎、

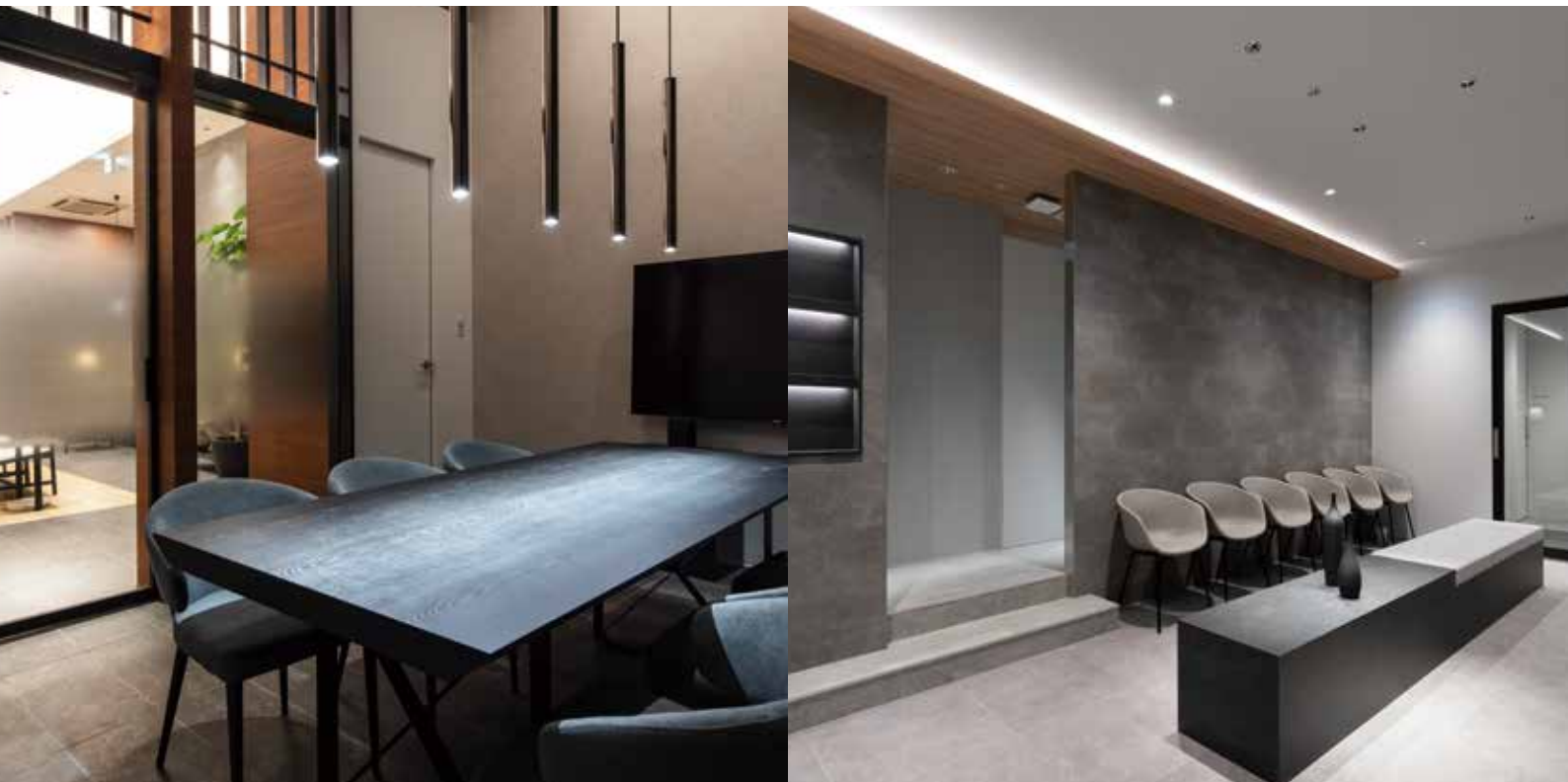
有限会社 ソフト AZ、司法書士松永美里事務所、株式会社 岸グリーンサービス

ISHIN



『通いたくなる場所』をデザインする

DIRECT 株式会社 / DIRECT 建築設計事務所



医療情報誌 医心「ISHIN」 協力病院一覧

石川県

金沢大学附属病院	石川県済生会金沢病院	医療法人社団田谷会 田谷泌尿器科医院
金沢医科大学病院	独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院	医療法人社団博友会 金沢西病院
石川県立中央病院	金沢聖霊総合病院	医療法人社団藤聖会
金沢市立病院	金沢赤十字病院	金沢メディカルステーション ヴィーク
石川県立こころの病院	独立行政法人国立病院機構 医王病院	国家公務員共済組合連合会 北陸病院
加賀市医療センター	独立行政法人国立病院機構 石川病院	小松ソフィア病院
公立河北中央病院	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター	社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院
公立穴水総合病院	独立行政法人国立病院機構 七尾病院	社会医療法人財団董仙会 恵寿金沢病院
公立宇出津総合病院	社会福祉法人松原愛育会 石川療育センター	医療法人社団竜山会 金沢古府記念病院
公立つるぎ病院	医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院	医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院
公立能登総合病院	医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院	特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院
公立羽咋病院	医療法人社団浅ノ川	特定医療法人社団勝木会
公立松任石川中央病院	心臓血管センター金沢循環器病院	やわたメディカルセンター
国民健康保険 小松市民病院	医療法人社団浅ノ川 千木病院	公益社団法人 石川勤労者医療協会
市立輪島病院	医療法人社団光仁会 木島病院	城北病院
珠洲市総合病院	医療法人社団慈豊会 久藤総合病院	医療法人社団博仁会 小池病院
町立富来病院	医療法人社団 下崎整形外科医院	
能美市立病院	医療法人社団橋会 整形外科米澤病院	

富山県

富山大学附属病院
富山県立中央病院
富山市立富山市民病院
あさひ総合病院
射水市民病院
かみいち総合病院
黒部市民病院
公立南砺中央病院
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
高岡市民病院
市立砺波総合病院
南砺市民病院
公立学校共済組合 北陸中央病院
独立行政法人国立病院機構 富山病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院
独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院
富山県済生会高岡病院
富山県済生会富山病院
富山赤十字病院
医療法人財団恵仁会 藤木病院
医療法人社団秋桜 丸川病院
医療法人社団尽誠会 野村病院
医療法人社団藤聖会 富山西総合病院
医療法人財団五省会 西能病院
富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院
富山県厚生農業協同組合連合会 滑川病院

福井県

福井大学医学部附属病院
福井県立病院
市立敦賀病院
独立行政法人国立病院機構 あわら病院
独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター
福井県済生会病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 福井勝山総合病院
福井赤十字病院
医療法人福井心臓血管センター
福井循環器病院
医療法人厚生会 福井厚生病院





私たちは地域の皆様に 寄り添い、頼られる 薬剤師になります。

超高齢社会の中で、ドラッグストアに求められる機能、地域社会において果たすべき役割が拡大しています。その中で当社は、地域の皆様の『健康の維持・予防・未病』から『治療・看護・介護・終末期』まで、生涯に渡ってトータルなヘルスケアサポートを行います。

各種、医療機関、クリニックの処方箋応需



地域の健康維持・増進をサポートする 石川県庁前店



コミュニティスペース

血管年齢、筋肉量・脂肪量等がいつでも無料で測定可能。管理栄養士がカウンセリングします



介護ステーション

初めての介護の相談や介護用品の販売・レンタルまで福祉用具専門相談員が親切に対応します

中部・関西・関東・北陸・信州・
北海道・東北に出店エリア拡大中!

グループ合計

(2024年
6月末現在)
1,760店舗

関西 **581**店

北陸・信州 **84**店

北海道・東北 **3**店

関東 **502**店

中部 **590**店

■ 全社
売上高 **7,444.8** 億円 前期比 +11.5%
(年間計)

■ 調剤
売上高 **1,587.8** 億円 前期比 +11.5%
(年間計)

■ 処方箋
枚数 **1,475.9** 万枚 前期比 +14.3%
(年間計)

■ 訪問調剤
対応店舗数 **601** 店舗 前期比 +6.4%
(年間計)

■ 訪問調剤
患者数 **189,109** 名 前期比 +7.4%
(年間計)

2023年度実績

詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.drug-sugi.co.jp/>

スギ薬局

検索

〒474-0011 愛知県大府市横根町新江62番地の1 TEL 0562-45-2700